

入した全協革反の魔手も今日に於ては殆んど其の勢力を失ひ、表
面的地上の總ての行動は封鎖せられて居るのである。總じて過去に
於ては左翼と呼ぶなされた分子も、最近頗る灰色化し、軟弱化して
みるやうである。
猶茲に左翼労働運動の一派生として市の電従業員内部に於ける消
費組合運動について略記する。昭和五年四月の大罷業前夜から、團
東消費組合聯盟及消費組合聯合会等の支援指導により、漸次市内
部にその組織の擴大を見た。消費組合はその数に於て十組合に上り
、何れも左翼前職者との関連の下に經營せられてゐる。その全勞時
代は、昨春、即ち市電廣尾罷業及横浜市電停業時と觀ることも出
る。然しその後、城北(南十姓)、城南(廣尾)、西南(香山)
、城西(早稲田)等、東國消費組合及勞友社(新宿)、北郊(大塚)
、菜鴨(大塚)、東東(柳島綿糸堀)、麻布(三田大田)等、
各自的消費組合の組織は依然現存するのであるが、左翼運動の擴
大発展の爲に利用せられる傾向を持つて觀られた。此種消費組合は
今日その前途は暗く閉鎖せられ、經營難或は組合員の氣象の
消弱と協力心、鉛パンの廉價供給をしてその使命の一端を果して居

る。組織以来市電内部消費組合中、常にその前衛的立場に於ては西
南消費組合も、去る八月五日限り解散を命ぜられた。
今後に於ける市電内部消費組合運動の擴張は、予想を許さ
ないものがあるが、概して全協系分子の活動とその運命を共にする
もの、次に右翼運動に就いて觀るに、伊藤誠、宮井富吉、馬場五三、
浜田藤治、郎尊久、東交部、赤松克麿との連絡は、實に日
從業員三百名余が、昨年爭議に際し、赤松克麿との連絡は、實に日
本主義交通労働組合準備会組織に、同系糾合に努めて居るのであ
るが、市電従業員の日本主義に對する關心は甚だ微々たるものに
て、この準備会と雖も現實同盟に未結時れたる、伊藤、宮井等元老
との交友關係に於いて半は無批判に追隨せざるものに過ぎない。
團體、最近局外者(別府毅介等)に依つて結成された國家社会主義
林信吉は、同会常任委員となつて加盟した。同人的か、る行動は、或
は再び彼が右團體を足場として市電従業員内部に向つて何等かの運
動を惹起せしめんとするの準備行動とも見られるのである。
以上の如き左派の運動は、概して現在既の發展性も於てなく